



# 千葉労働組合

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043 (222) 7207 番

98.9.18 No.4848.

## たたかいはまだ終わっていない 被災地フィールドワークに参加して (9/5)

### 行政の対応に募る怒り

九月五日、私たち「被災支援連」は、総勢二〇名で、あの被災から四年が過ぎようとしている現地に於いて、「被災地雇用と生活要求者組合」及び「関西合同労組兵庫支部」主催の『9・5被災地フィールドワーク』に参加しました。

関西合同労組の鎌牟田さんに被災地の現状を説明してもらいながら案内していただいた。そこで現在の仮設住宅について説明があり、『今、仮設に住んでいる人たちは、職がない人ばかりだ。特に女性、パート労働で稼いでも仮設が不便な場所にあるため、交通費を差し引くと、ほんのわずかにしかならない。行政は、仮設を撤去するというが、これでは仮設からでられない』と、行政に対してつる怒りを爆発させていた。

続いて西神の『IP興亜池団地工場』へ行った。ここでは以前、長田でケミカルシューズを作っていた伊勢崎さん兄弟の工場があり、そこで現状を聞いた。『長田の工場は、地震では大丈夫だったが、その後の火災でみんなやられた。長田の消火栓は明治時代のもので使いものにならず、消防車もこなかった。これは行政の責任だ』『部品の搬入も儘ならず、長田なら電話一本ですぐ届いたのに、こんな町外れに工場を移されたらたまた

ない』と、ここでも行政の対応に不満を募らせていた。

次に、公園の中にある仮設に行き、そこに住んでいる竹内さんの仮設を訪ねて話を聞いた。

『三回目の募集でここに移って三年七ヵ月、住宅要求者組合が出来たおかげで仮設に入れた。でも壁は鉄板で、冬は寒い夏は四〇度から五〇度になる。仮設という不安定な生活環境で自殺者も出るほどだ』と現状の厳しさを訴えた。

続いて、『被災地仕事開発事業部』の人たちの現状を聞いた。企業組合の登録者は一八〇〇名で、その内約一〇〇〇名が就労しているが、ろくな仕事がなく、失業対策事業としてピラマキなどをやらせて本格的な仕事につかせないようになっているという。

次に、『住宅要求西の宮市民の会』の在日二世の許ヨシホさんの話を聞いた。

『この震災で家の下敷きになり、骨を折った。他の仮設に行くと『お前は国にかえれ』と言われた。黙っていたら行政は何もしない。闘いながら行政と交渉し、生存権を守っていく。復興住宅に当選したが、家賃不払い運動をやっている。それも相応な人数になっている。これは家賃を個々の収入にあわせて値上げするという行政の方針に対する抗議で、このやり方を変えて

いかなければならない。仮設の生活は息詰まっている』と切々と訴えた。

その後、『ワーカーズ・コープ』を訪ねた。ここは、働く者と経営をプラスした会社になっている。震災から二年経ち、ここ七ヵ月黒字になっている。三人の針子さんは、障害者、高齢者にやさしい靴を作り、一人一人に合った靴を作っている。長谷川さんは、『ここは、被災地と共に、血のかよった支援によって成り立っています。この工場も借金です。企業組合は、前へ進んでいます。震災の時に受け



ワーカーズコープで働く針子さんたち。

《ゴーストタウン化している仮設住宅》



たぎずは、一生のこります。心のケアが大切です。みんなの支援に伝えられる組合を創っていきます。』と力強く訴えた。その後、あちらこちらに建っている仮設住宅を見て回ったが、中には一つも入っていない仮設もあった。これが行政の考える対策の実態かと思うと怒りが込み上げてきました。

このフィールドワークでは、改めて団結の大切さを知らされた思いです。今こそ労働者は、総団結して闘わなければならない時です。被災地の闘いに学び、大失業時代を跳ね返す大きな運動を造り上げよう。